

## わたのはら こぎいでてみれば

第7期 OG 菊盛 真衣

昨年より新天地・大阪にて新生活がスタートしました。新しい所属先は立命館大学経営学部、職位はなんとビックリ准教授です。重ねてビックリですが、昨年30歳になりました。ありがとうございます、晴れやかに独身の三十路に突入です。あんなに恐れていた魔界もいざ入ってしまうと、痛みも恥じらいも全く感じず、むしろ痛むのは、大人になったことを理由にして昔では考えられない太っ腹な買い物をした後の懐事情でしょうか。とはいえ、マンションもマイカーも買っていない私なんて、まだまだ三十路ひよっこです(ピヨピヨ)。そんな軽快に30歳になった2017年は、大阪という大海に繰り出して大きな波に揉まれながら過ごした、正に「怒涛」の1年でした。よく沈没しなかったねって感じです。

人生のほとんどを関東で過ごした私にとって、単身で大阪に暮らすという環境変化は負担の大きなものでした。地理感覚のない大阪の街、住み慣れない部屋、出掛ける時にはGoogleマップ必須。すぐさまどうにかしたいのに、時間が経って慣れる以外に解決法がない問題ばかりで随分もどかしい思いをしました。最初の1か月で関西弁を聞くのが嫌になりました。街中で聞こえる知らない人の会話や店員さんの「おおきに」にも苛立つレベルの末期状態になりました。所属大学も変わったので、職場での環境変化もありました。本学は大阪の茨木(新大阪から急行で8分)に3年前に出来た大変新しいキャンパスに在ります。キャンパスは中も外もとても先進的な造りで、とにかく綺麗です。自分1人の研究室もいただいて恵まれた研究環境を手に入れたものの、建物自体が広大でどこにどの教室があるのかわからない。困ったときに誰に尋ねればいいのかも不明。教員はどこでご飯食べるの? この食堂、学生多過ぎ!! ぼっち飯がバレちゃうよ!! ぼっち飯にも優しい三田の山食と谷食が懐かしいよ!! と、心の中でぼやき続けていました。そうして新生活で溜め込んだ鬱憤は、大阪に越して2か月が過ぎる頃、中毒疹と呼ばれる形で顔や腕を中心に大量のブツブツとなって爆発し、授業期間真っ只中に1週間自宅で安静という最悪の事態を引き起こしました。休めないんですと懇願しましたが、お医者さんには、「相当(強調)無理されはったんっちゃいます? 体の中の毒を出し切らんと治らない



新任早々、学部紹介用の広報紙にインタビューが掲載されました。

ですよ。無理した分の代償でちゃんと体休めなだめです」と叱られました。その後、顔は2倍くらいに腫れあがり、ブツブツで見るも無残な見た目になりました。三日三晩死んだように眠り続けて、漸く回復。かなり苦しみました。そのブツブツが出尽くしたおかげで、自分の体や心に溜まった毒素が抜け出て、この土地で生きていくんだと吹っ切れました。東京へのつまらないこだわりの犠牲になった体よ、ごめんね！ って感じです。ちなみに今は、住めば都状態で楽しく大阪で暮らしています。

新生活と同じくスタートしたのが、ゼミです。約70人の応募者を選考して20人を1期生として迎え入れられました。人が集まっただけではゼミ活動は成り立たないので、ルールを作り、ゼミ生の役割を作り、活動計画を作り、といった感じで大まかな所から、飲み会や合宿の場所決め、各日のコンテンツ作りといった細かい所まで、決めることは盛り沢山。1年目のあらゆる決定がこの先の土台となるので慎重に、と思っていましたが、学期が始まればそんな余裕は全くなかったです。とりあえずやってみよう！ 失敗したら、次考えよう！ と持ち前の適当さ(?)でゼミ生と二人三脚で進めてきました。そんな私の手荒なやり方にも付いてきて、ゼミの土台を築いてくれたゼミ生たちには恐れ入っています。ゼミが始まって1か月ちょ



就活講演会第1弾。第10期石井君（前列右から3番目）、第12期梶田君（前列右から4番目）、13期長妻君・山本さん（前列左から4番目・3番目）が祝日にもかかわらず来てくれました！（著者は前列左端）



就活講演会第2弾。第11期佐藤君・内藤君・小平さん（前列右から2番目・3番目・4番目）が多忙の中来てくれました！ 本当にありがとう！（著者は前列左端）

っとで、小野ゼミや中大、関大とのインカレディベート大会に出場して、それなりの成果を披露したり、4つの論文チームに分かれてそれなりに実証論文を書き上げて学内で全チームが受賞したりと、私からすれば本当にみんなよく頑張ったなと思います。称赞の気持ちを表して「ほんととすごい！ えらい！」と普段から褒めているつもりなのですが、不真面目な口調のせいか、「センセイ、ほんまに褒めてくれへん！」と言われる。教育の難しさを感じる瞬間ですね。

ゼミの立ち上げの1年間は大変な局面も多々あつ

たのですが、小野先生や小野ゼミの現役生、OB・OGにたくさん助けてもらって乗り越えられたと思います。小野ゼミとは、インカレディベートだけでなく沖縄で研究報告会も合同で実施して、大量の泡盛で懇親させてもらいました。小野先生、大学院生の皆様、差し入れありがとうございました(笑)。OB・OGとなった後輩たちにも、ゼミに来てもらって就活講演会をしてもらいました。皆さま、お力添えいただき本当にありがとうございました。さて、そんなゼミ活動の様子は、菊盛ゼミのホームページはもちろん、InstagramやTwitterでも随時配信しております。(SNSのフォロワー数が増えずゼミ生が悲しんでいるので、気軽にフォローしてもらえると嬉しいです！笑) ホームページは、今のところ活動ブログが中心ですが、今後は情報を拡充していく予定ですのでぜひチェックしてみてください。

最後に、今回の百人一首は、「わたの原 漕ぎ出でて見れば 久かたの 雲みにまがふ 沖つ白波」です。大海原に船を漕ぎ出してずっと遠くを眺めてみると、遠く水平線の彼方に雲と見間違えるほどに白い波が立っている、という雄大で爽快な歌です。大阪という海に漕ぎ出した1年間、最初は嵐のようなスタートでしたが、30歳になった私に今見えているこの先は、この和歌で描かれているような景色なのです。実は、先日中国と韓国の短期留学生に英語で授業を行いました。学生の方が英語をスラスラ喋れて、自分はただどどしくて本当に恥ずかしい思いをしました。恥ずかしくてもう一生やりたくないと思ったのですが、でもふと、こうして恥をかいても立ち直れるのはもしかしたら今のうちだけかもしれないと思い直しました。だから、失敗しても笑い飛ばせるうちに、とりあえず挑戦したいことは何でもやってみようと思います。超苦手な英語の会話を少し苦手というレベルにステップアップすること、自分の博士論文を出版すること、弟子を育成すること、研究者として教育者として達成したいことはたくさんあります。ゼミも組織としてさらに成熟させたいです。専任教員になるのが目標だった大学院生の頃は、教員になったらのんびり楽しむのほほんどできるのだらうと呑気に考えていたのに、全然違うじゃん現実！でも、そんな現実の方がきっと楽しいはず。たくさんの野望を胸に秘めながら、大海原への冒険はまだ始まったばかりです。



第2期生も新たに加わりゼミ生は総勢40名になりました！これからも頑張ります！（著者は前列中央）